

令和5年度 学校評価書

学校名: 静岡市立高等学校

I 経営の重点に関わること

1 学校教育目標	自己評価	学校関係者評価委員会から
1 学校教育目標: 「質実剛健」の気風を継承し、校訓「正しく、強く、明るく」を基に、「文武両道」を目指し、地域社会や国際社会に貢献できる、調和のとれた創造的な人間を育成する。		
2 重点目標 生徒一人ひとりの自立(自分の力を発揮して人の役に立つ人間になること)に向かって未来起点の思考と日常の凡事の徹底により、高校生活(学習、部活動、学校行事等)を通して、3つの資質・能力(自己有用感、視野の広さ、主体性)を生徒一人ひとりが自ら育むように、教職員、保護者、同窓会、地域等が連携し、皆で支援する。	<p>(1)授業、部活動、家庭学習時間の確保</p> <p>①部長会や掲示物等を利用し、一人ひとりが活躍する部活動になるよう指導する。年度末アンケートで、満足度80%を超える。【生徒課】</p> <p>【学校説明】 全国大会での活躍と日頃の生き生きとした活動が目立ち、学校活性化に繋がっている。</p> <p>②適切な帰宅時間を順守できるよう、学年部・部活動と連携し、家庭学習時間を確保していく。「帰宅時間調査」を年2回実施し、午後7時半までに学校敷地外に出る生徒の割合が前年度並みとなることを目指す。【教務課】</p> <p>【学校説明】 7月・11月に調査を実施したが、昨年同様の結果であった。学校として学習時間の確保に継続して取り組みたい。</p> <p>③教科を超えた授業研究会を年間2回開催し、学校全体で共有する。また、授業評価アンケートを通して生徒に「主体性・視野の広さ・自己有用感」の総合的な自己評価を促す。授業評価アンケートにおいて「主体性・視野の広さ・自己有用感」が身についたと感じる生徒が、全体の80%を超える。【研修課】</p> <p>【学校説明】 主体性が身についた生徒が90%、視野の広さが89%、自己有用感が80%であった。</p>	A
(2)地域や保護者に関わった学校づくり、安心・安全な学校づくりの推進	<p>①PTA会員や役員と連携してPTA活動がより活発になるようにして、生徒が生き生きと学校生活を送ることができるようにする。情報課と連携して、ホームページでPTA活動の情報を積極的に配信する。PTA地区会を通して、学校と保護者の連携を深める。PTA研修会の参加率5%程度増加。PTAが関係する行事のホームページへの記事掲載5回以上。PTA総会等の保護者が参加する行事を再開する。【総務課】</p> <p>【学校説明】 PTA校内研修会の参加者は45名(ZOOM参加者を含む)で、昨年度より増加した。ホームページへの掲載は予定通り行われた。また、PTA総会・文化祭バザー・地区会・大学見学など様々な事業を再開することができた。</p> <p>②授業公開ポスターや学校案内は、より効果的に内容が周知・アピールできるようデザイン等のブラッシュアップを図る。Webページに関しては、タイムリーな情報発信を実施する。授業公開ポスターは5月からの中学校訪問に間に合うよう作成する。学校案内は9月完成を目指す。Webページは年間平均閲覧数で2,500件/日を維持する。【情報課】</p> <p>【学校説明】 授業公開ポスターは予定通り作成し、中学校訪問時から配布を開始できた。学校案内も予定通り完成した。Webページのアクセス数に関しては、12月末の時点で612件/日と昨年度より大幅に減少した。今年度よりアクセス先が変更となったことが大きな原因と思われるが、サーバー変更に伴い閲覧件数の計測方法が変わった可能性もある。</p>	A
(3)教職員のワークライフバランス(仕事と生活の調和)に配慮した校内体制の整備を推進する。	<p>①勤務時間が適正であるとする教員が50%以上。【管理職】</p> <p>【学校説明】 スクールサポートスタッフの配置により教員の印刷等の業務が大幅に削減され生徒に向き合う時間が増えた。正副顧問間で指導を分担することで超過勤務者数の減少が見られたが、生徒の完全下校時間を徹底することで教員の時間外勤務の削減に取り組む必要がある。</p>	B
		<p>生徒一人ひとりが達成感や就労感をもち、満足度が目標値を超えていることから高く評価することができる。</p> <p>時間を守る、目標達成への努力などが2回の調査結果より概ね達成できている。</p> <p>授業評価により生徒の学びに向かう力の育成が窺えることから高く評価することができる。</p> <p>生徒の頑張りや成長を広く広報することで、学校・家庭・地域との連携や協働ができていることから高く評価することができる。</p> <p>Webページの閲覧数が減少した原因及び今後の掲載内容についての充実に期待したい。</p> <p>職場の情報化、スタッフの充実等、各業務の見直しや分析が必要である。</p>

II 各指導部・領域等に関わること

大項目	中項目	評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から	
1 教育課程 学習指導	(1)確かな学力の育成 【市共通項目1】	①朝課外、放課後課外、夏季課外、冬季課外等を企画運営し、生徒の学力伸長を図る。また模試を最大限活用するための指導方法を模索する。普通科特進クラス、科学探究科の全クラスに対して、毎日朝の課外授業を実施する。模試の事前準備として、過去問題冊子とClassiを活用する。【進路課】	B	<p>教員の個に応じた指導に対して高く評価することができる。</p> <p>・生徒にとって、評価基準を事前を知ることは、より深い学習のための基礎となる。</p> <p>・生徒一人ひとりの「今よりも良くなりたい」という思いを引出し、志を持たせて欲しい。</p> <p>・CHAT・GPTのような生成AIを活用することも必要であると思うが、全てを生成AIに頼ることは危険であると思うので、使用方法について精選するように望む。</p> <p>生徒が学びの状況を客観的に捉え、関係者と共に情報共有されていることが進路実現にとって重要である。</p> <p>読書によって視野を広げ、自分にはないもの見方や考え方に触れることは、思考力を伸ばす上で不可欠である。</p> <p>達成感の自己評価が目標値を超えているが、更に目標値のアップを目指して欲しい。</p> <p>校則の見直しに柔軟に対応していることから高く評価することができる。</p> <p>迅速な対応をしており、高く評価することができる。</p> <p>人権意識は、安心・安全な社会の礎である。今後も未然防止を含め、各方面と連携した対応に期待したい。</p> <p>社会の第一線で活躍している人との触れ合いは自己を見つめ、将来を考える良い機会である。将来の高い志を持たせるためにも適時に実施することに期待する。</p> <p>生徒に将来を見据えた高い目標を持たせながら、一人ひとりが持っている様々な力を湧き出させ伸ばすことに期待する。</p>	
		【学校説明】 ・1、2年生は特進クラスと科学探究科に対し、毎日朝の課外授業を実施した。11月の模試において、普通科一般クラスに比べ平均偏差値が8ポイント以上上回る結果となった。 ・3年生に対して1年間を通して、放課後の課外授業を行うことができた。この後2月からも特別補講を実施する予定。	A		
		②学習習慣の定着や学力向上に関する学年の取組 ・学習実態の把握、生徒面談など、家庭学習時間の確保のための学年・担任および副担任の連携による指導を行う。家庭学習時間は平日2時間以上、休日4時間以上を目標とする。【1年部】 ・学習実態の把握、生徒面談、家庭学習時間の確保のための学年・担任および副担任の連携による指導を行う。平日部活時間+学習時間合わせて5時間以上。休日部活時間+学習時間合わせて7時間以上。成績優良者40名以上。【2年部】 ・部活動と学習の充実(学習+部活=5時間)を引退前より促し、部活動引退後の気持ちの切り替えを早く行い、授業へ意欲的に取り組み、課外授業へ積極的参加、放課後の自学自習を促す。またBF、LHR等時間を活用するとともに、HR正副担任による継続的な面談を実施し、生徒の目標設定の支援を行い、受験情報を提供し視野を広げ、最後まで粘り強く受験に挑ませる。生徒の参加人数の増加。国公立大学合格者数170名以上。【3年部】			
		【学校説明】 (1年部) 学習時間調査を徹底し、一貫した指導を継続できた。家庭学習時間の平均は平日2時間、休日3時間程度、校内定点調査では1時間未満の割合が例年より少なく良好な結果であった。担任によるきめ細かな生徒への働きかけも行われ、一定の時間を確保できた。			
		【学校説明】 (2年部) 部活時間+学習時間については、平日の5時間以上は概ね確保できたが、休日の7時間以上は生徒間でばらつきが見られた。しかし、この目標設定は良かったと感じる。成績優秀者は1学期末が48名(14.7%)、2学期末が53名(16.3%)となり、上位者は1年次に引き続いて頑張っている様子が感じられた。			
		【学校説明】 (3年部) 1、2年次の継続的な指導に加え、部活引退後のスムーズな移行を進めることができた。自習室の使用や放課後課外への参加など学年での進路実現にむけた良い雰囲気を作ることができた。学年集会やBFの中で進路課と学年の先生方からのスピーチを実施することで双方向のコミュニケーションが図れ、進路意識の高揚につながった。担任と副担任によるきめ細やかな指導によって最後まで粘り強く生徒は受験に向かうことができた。			
		③教科を超えた授業研究会を年間2回開催し、学校全体で共有する。学習履歴を蓄積し、情報を適切に共有する体制を整備する。Classi等を利用して、学習履歴を適切に共有する。【教務課・研修課】			A
		【学校説明】 すべての教科を対象とした授業研究会を2回行った。2回目の研究会では国語の授業を中心授業として、すべての先生方で協議を行うことができた。また、毎テスト後に学習の履歴をClassiで配信した。順位の表記方法について、引き続き改善していきたい。			
		④指導上必要な書籍の選書、購入、教員、図書委員によって図書室の利用を促す。新着情報や生徒による図書委員会の活動を通じて図書室利用を呼びかけ、利用者を増やす。【図書課】			A
		【学校説明】 新着図書教室の教室掲示、図書委員による図書室の利用の呼びかけを随時行った。また、図書委員によるピブリオバトルで紹介した本は、冊子にして新入生の読書案内として配布した。年度末に図書館報も発行している。			
(2)道徳教育の充実 【市共通項目2】	①6Cs(生徒自己評価)のcollaborationについて、全体の50%がレベル4に到達する。【研修課】	A			
【学校説明】 年度途中の段階で55.2%であり、達成することができている。しかし、多くの体験を重ねることで自己評価が低くなる傾向もみられるので、さらにプログラムを精査し、より良い結果を出せるようにしたい。					
(3)特別活動の充実 【市共通項目3】	①校則の見直しを生徒会主導で行う。現行のルールを生徒・職員が納得して改定。【生徒課】	A			
【学校説明】 生徒会主導で校則の改定に成功。次年度以降も継続し、見直しを進めたい。					
2 生徒指導	(1)一人一人を大切に指導 【市共通項目4】	①集会等を利用し、いじめのない環境作りを導く。いじめ件数0件。【生徒課】	B		
		【学校説明】 いじめ1件。未然に防げた案件だったと思う。日常の指導を徹底したい。何か起きた際の教員の動きが迅速であった。			
		②相談室より、保健講座、人権教育において人権尊重の立場を生徒へ明確に伝える。生徒の校内の人間関係における相談が校内の職員になされる。【教育相談室】	A		
		【学校説明】 生徒から上がった人間関係の問題について、必要に応じて職員に調整を依頼したり、生徒のケアにあたりたいことができた。			
3 進路指導	(1)進路指導の充実	①初期指導を充実させ、学習習慣の確立・定着を支援する。また大学教授による出張講義や職場体験、キャリア講演会等により、自らの進むべき分野について考える機会を提供する。年度当初に5教科で初期指導を行うとともに、学習時間調査を毎日実施し、習慣の定着を図る。10以上の大学による講義・説明会を実施する。【進路課】	A		
		【学校説明】 ・入学後早い段階で5教科すべての初期指導を行うとともに、学習時間調査を毎日実施、6月の進路アンケートでは70%の生徒が平日に1.5時間以上の学習時間を確保することができた。 ・学年に応じた進路講演会や大学の出張授業等、自分のキャリアを考える機会を年間14回実施することができた。			
		②進路だよりの発行、Classi配信等による進路情報の提供を充実させる。また各種研究会へ多くの教員に参加してもらい、最新の入試情報を生徒へ還元できるようにする。各学年、年間5回以上進路だよりを発行する。3年部職員は年間2回以上、進路研究会に参加し、内容を全体に報告する。【進路課】	A		
		【学校説明】 ・各学年進路だよりやClassiの配信により進路情報の提供を行うことができた。 ・各業者が行う春、秋、冬の入試分析会に3年部職員が参加し、進路検討会において情報共有を行った。			

4 安全管理・指導	(1)学校安全システムの構築 【市共通項目5】	①無事故・無違反を達成する。【生徒課】 【学校説明】 日頃から重点的に交通ルールの指導を行っているが、無事故・無違反は達成できていない。継続的に指導を行っていききたい。 ②生徒の安全を最優先に考え、施設・設備等の定期的点検及び不具合箇所の早期対応を図るとともに、老朽化した施設等の修繕を計画的に行い、生徒が安心して学校生活を送るための環境整備を行う。【事務室】	B A	B A	交通ルールについて、継続的な指導をお願いしたい。 学校は社会の中で最も安全・安心な場であるべきであり、そのことを生徒にも徹底させて欲しい。
5 保健管理・指導	(1)健康教育の充実 【市共通項目6】	①生活習慣の確立に関する各学年部の取り組み ・遅刻・欠席の少ない学年を目指し、学年末皆勤の生徒150名を目標とする。【1年部】 ・遅刻・欠席の少ない学年を目指し、学年末皆勤の生徒150名を目標とする。定期的な面接指導を継続する。【2年部】 ・校内での生徒の様子確認。担任会での情報共有。年間の皆勤生徒140名以上。【3年部】 【学校説明】 (1年部)1学期皆勤者171名、2学期皆勤者121名、1～2学期皆勤者は81名であった。家庭と協力し、落ち着いた学校生活を送れる生徒を増やしていきたい。 (2年部)1学期皆勤の生徒は145名(44.6%)、2学期皆勤の生徒は124名(38.1%)。学年末の1年間としての皆勤者は、100名以上が出るように心身ともに健康な状態を作ってもらいたい。 (3年部)いじめ案件に関しては、3年間を通じてゼロであった。生徒間、職員間での信頼関係や他者を尊重する態度など落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送ることができた。穏やかな雰囲気の中で、切磋琢磨し進路実現に向けて取り組むことができた。	B	B	生活習慣の確立は、大きな展望をもって活動したり、夢の実現に向けて計画し、実行したりする力の基盤である。自律性の育成のためにも様々な機会を捉えて意識を高めて欲しい。
6 特別支援教育	(1)学校の実態に応じた校内支援体制づくりの推進 【市共通項目7】	①相談室だより、保健講座、人権教育において人権尊重の立場を生徒へ明確に伝える。生徒の校内の人間関係における相談が校内の職員になされる。生徒の困りごとが、2、3週間程度の早い段階で相談される。【教育相談室】 【学校説明】 こころのアンケートでの生徒の困りごとの記述が、例年に比べ少なく、困りごとを出しやすい環境を整えていく必要を感じた。	B	B	引き続き、相談しやすい環境づくりに努めて欲しい。
7 組織運営	(1)組織・運営の改善 【市共通項目8】	①組織的・協働的な教育活動に取り組む教員が全体の80%以上。【管理職】 【学校説明】 探究活動、教育相談案件、生徒指導案件など、教員間で情報共有し組織的・協働的な教育活動を行うことができた。加えて、研修課による教職員研修を定期的に開催し教員間の各業務に対する理解が深まり、積極的に教育活動を行うことができた。	A	A	今後も関係職員が生徒の状況を共有し、指導のベクトルを揃えたいきめ細かな対応をお願いしたい。
8 研修	(1)研修体制の充実 【市共通項目9】	①教育課程や学習評価等を適切に運用し、研修等を通じて課題の検証を行う。今年度実施した教育課程、学習評価法等が適切であったか情報共有・検証する機会を設ける。【教務課】 【学校説明】 教育課程検討委員会(3回)、学習評価研修(2回)実施し、情報共有と改善案の検討を行った。 ②年間13回の職員研修を実施し、主体性・視野の広さ・自己有用感の育成をカリキュラム・マネジメントを通じて実現していくための指導体制を確立する。また、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を行い、教員の資質向上を図る。年度末に重点目標に対する自己評価を行った際に、評価「A」が全体の70%以上になるようにする。【研修課】 【学校説明】 学習評価の研修を2回、授業力向上研修を3回、コンプライアンス研修を2回、小論文研修を1回、SSH関連の研修を2回行った。加えて今年度はグラウンドデザインの研修を年度当初に取り入れることにより、教育活動の方向性を職員全体で共有した。	A A	A A	新しい評価方法の適正について共有化が図られているが、更なる検証を望む。 生徒一人ひとりに高い目標・志を持たせながら、より深い学びとなるよう継続した研究・研修をお願いしたい。
9 保護者・地域住民等との連携	(1)信頼される学校づくりの推進 【市共通項目10】	①PTA会員や役員と連携してPTA活動がより活発になるようにして、生徒が生き生きと学校生活を送ることができるようにする。PTAが発行する「鴻志」『ふれあい』等の情報発信業務を、PTA役員と協力して適切に行う。【総務課】 【学校説明】 鴻志、ふれあい等の定期刊行物を予定通りに発刊するとともに、誌面のスリム化を図った。 ②地区別集會や防災訓練等を通して、生徒・教職員の防災意識の向上や地域防災への関心を高める。また、地域防災訓練への参加者数を増やす。防火管理者(教頭)と協議のうえ、消火訓練など本校の防災管理計画を見直す。職員の役割分担を確認する。生徒用防災備蓄用品の充実を確実に実施する。地域防災訓練の参加者数の5%程度の増加。校内防災訓練を3回以上実施する。【総務課】 【学校説明】 今年度は昨年度よりも地域防災訓練を実施する地域が増え、生徒参加者は98人で昨年の68名よりも増加した。	A A	A A	教職員と保護者が機会あるごとに顔を合わせ広報することは、学校・家庭・地域の連携・協働の礎である。 地域が計画する防災訓練への参加数増加を望む。地域の自治会連合会に防災訓練等の実施日を聞いて、生徒達への周知をお願いしたい。
10 施設設備	(1)リサイクルや省エネの推進	安全点検を計画的に実施し、改善・修繕の担当箇所を明確にして連絡調整をする。安全点検が行われ、修繕等の対策がなされ改善される。ゴミの分別を呼びかけ、分別が適切に行われる。【保健環境課】 【学校説明】 清掃活動については、各清掃場所の担当の指示で適切に行われた。年間3回行われる学校施設安全点検や前後期の校内安全点検も適切に行われ、修繕の必要な物は事務室・用務員に連絡し対応した。 ②古紙リサイクルの推進及び可燃・不燃ごみの分別の周知、徹底を図る。また、省エネについては、教室等のLED化を計画的に進めていく。【事務室】 【学校説明】 「ごみの分別」については、徹底されるよう周知を行い意識啓発に努めるとともに、学校用務員による廃棄物の確認を行った。また、省エネについては、グラウンド(サッカー照明灯)やテニスコート照明灯の一部、非常誘導灯の一部についてLED化を実施した。さらに、エアコンや電灯等の消し忘れがないよう周知を行い、省エネに努めた。	A A	A A	学びの心の育成のためにも整理整頓された環境、安心・安全な環境整備の心を育てて欲しい。 学校の環境負荷を減らす努力は、持続可能な社会の創り手となる生徒にとって良い教育である。LED化は優先的に進めて欲しい。
	(1)科学探究科の特色化と指導の充実	①探究活動の成果を地域に還元する。静岡市内教員を対象とする研修(ISEP教員研修)の実現に向け、管理機関との打合せの機会を創出する。独自アセスメントを軸とするカリキュラム開発を行う。6、2月に生徒発表会を実施し公開する。管理機関との打合せを2回実施する。独自アセスメントの結果を校内教員研修の機会に共有する。【科学探究科】 【学校説明】 6月、2月に生徒発表会を公開した。12月には、次年度以降に実施を予定している「ISEP教員研修」のあり方について、管理機関と静岡市教育センターと協議した。 ②教材の公開、ポータルサイトの活用について研究する。教員との議論を通して生徒の主体的な取組を支援し、各種コンクールへの応募等を積極的に促す。研究内容に関する評価平均値3.0以上。科学系コンクールでの受賞2点以上。【科学探究科】 【学校説明】 クラウド上に科探科1～10期生の研究レポートを保存し、データベースを完成させた。現在、13期生(1年)が、次年度に行う課題研究の課題設定に早速活用している。科学系コンクールでは、1/19までに2件が受賞した。 ③ISEP企画委員はSSH運営指導委員会に参加し、指摘された事柄を教員間で共有しISEPの改善に活かす。探究活動が充実していたと回答する生徒の割合80%以上。【科学探究科】 【学校説明】 「経過措置」としてSSHに取り組んだ。再申請にあたっては、ISEP企画委員会において生徒の探究力に伸ばしに係る取組を見直し、先進校視察で得た見識を次年度以降の探究活動に取り入れることを決めた。生徒アンケートは2月中旬に実施する。 ④大学等との連携も活用して教員の指導力を向上させる。少人数を活かした授業を展開する。「プログラムを通して気づきが得られた」と回答する教員70%の割合が70%以上。少人数授業に対する生徒満足度85%以上。【科学探究科】 【学校説明】 科探科、普通科での探究活動を通して「生徒の変容を感じた」教員は90%に上り、その指導経験が授業改善につながった教員も72%に上った。科探科では探究活動に加えて英数理の授業で少人数指導を行い、生徒と教員との意見交換を多く行った。	A A A A	A A A A	科学探究科のこれまでの成果を普通科、地域へ還元することで探究を軸として個人が深く考え、行動する力の育成につながる。 過去の研究成果を知ることで、現在の自分を見つめ、将来の自分がどうあるべきか考える道標となる。過去をしっかりと押さえて目標に向けて今を頑張らせたい。 現在までの11年間の取り組みの成果もあり、今後も期待している。 生徒達には幸せな人生、より良い社会の実現のために生涯学びに向かう力を付かせて欲しい。

学校から 経営のまとめ(成果と課題)
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスが第5類となり行動制限が緩和され、各教育活動がコロナ禍前と同様に実施することができるようになり、本校の掲げる教育目標をほぼ達成できた。 ・文部科学省指定のSSH事業(経過措置)では、科学探究科・普通科ともに、フィールドワークや校外の方々と関わり合いを持ちながら探究的な活動を進めることができた。第3期SSH事業指定を受けるための申請を組織的に行った。 ・授業をはじめとした学習活動や探究活動、部活動などあらゆる場面で、生徒の自己有用感を高める教育活動を推進した。 ・昨年度から始まった観点別評価について、今年度も研修課を中心とした計画的かつ継続した研修を複数回開催することで各教科では適正な評価を行うことができた。 ・昨年度に引き続き静岡市役所広報課と連携して学校案内を作成、学校ホームページの更新頻度、中学校での学校説明会の実施等により本校の魅力を発信することができた。加えて、土曜公開授業の学校説明会や静岡市内公立高校合同説明会に多くの中学生・保護者が来校し、一定の成果が得られた。 ・教職員のワークライフバランスに配慮した校内体制を構築するために、各業務に対する調査を教職員に行うことで業務改善の方向性が窺え、計画的に業務改善を始めることができた。

学校関係者評価委員会まとめ
<p>総じて、学力、部活動、校外活動において高いレベルを維持している。教職員の日々の努力があつてのことであると高く評価する。</p>